

I R データを活用した改善事例

2023 年 9 月
東京医療保健大学
学長戦略本部 I R 推進室

【学生の学修に関する実態調査】

- 災害時の休講措置を検討するにあたり、学部別の通学方法のデータを参照した。自転車やバイクで通学する学生の割合が他学部と比較して突出して高い学部においては、安全確保の観点から、現行の休講措置の対象を拡大することとした（遠隔授業の活用など）。
- 睡眠時間が必ずしも十分でない学生が多いことが明らかとなったことから、ある程度の睡眠時間を確保するように指導することとした。
※睡眠時間の確保が学修成果の向上に寄与することは先行研究で明らかなので、当該指導は生活指導に留まらず学修指導の一環と位置付けている。

【ディプロマサプリメント】

- DP ごとの学修成果の可視化により学生が苦手とする分野が示されていたため、苦手な分野について授業等で強化を図ることとした。

【卒業時アンケート】

- 入学したことを満足していない学生が一定数いることが明らかになった。I R データでは満足度と成績等との関係に有意な関係がみられず原因の特定には至っていないが、カリキュラムや行事の充実等を行い満足度の向上に努めていくこととした。

【調査全般】

- 総合的な学修成果にある程度の偏りがあることが明らかとなったことから、その結果を踏まえて総合型選抜の方法を見直すこととした。
- LMS の利用状況から、学生が有効活用できていない可能性が示唆された。まずは教員のスキル向上を図るため、スキルチェックの仕組みを構築した。